

第 64 回 日本卵子学会 学術集会

つくば市, 2023.5.20-21

P-022

形態動態学的評価 Eeva™ の指標を用いた胚盤胞評価方法の臨床における有効性

加部杏子¹ 入江真奈美¹ 水野里志¹ 福田愛作¹ 森本義晴²

¹IVF 大阪クリニック

²HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】近年、胚の形態動態学的評価の有用性が数多く報告されている。しかし、これらの報告は妊娠予測モデルとしての有用性を検証したにすぎず、実際に臨床で胚評価に使用し生産率の上昇や妊娠成立までの胚移植回数が減少したなど、臨床における有用性の報告は少ない。今回我々は、形態動態学的評価の一つである Eeva™ による胚評価の臨床における有効性を検証するために、従来の形態学的評価と比較した。

【方法】2019 年 3 月～2020 年 12 月に、初回の採卵を実施し、胚盤胞で凍結・融解胚移植を行った 217 症例を対象とした。症例をタイムラプスインキュベータ Geri で培養した G 群、ドライインキュベータで培養した D 群に分け、G 群はガードナー分類に Eeva™ を加味し、D 群はガードナー分類のみで胚の融解順を決め凍結した。まず、すべての症例を対象に融解単一胚盤胞胚移植後の臨床妊娠率、流産率、生産率を両群間で比較した。次に臨床妊娠が成立した 168 症例を対象に、初回の胚移植で臨床妊娠が成立した症例の割合、妊娠成立までの平均移植回数を両群間で比較した。

【結果】臨床妊娠率は G 群 44.4%(83/187)、D 群 48.3%(98/203)、流産率は G 群 14.5%(12/83)、D 群 21.4%(21/98)、生産率は G 群 36.9%(69/187)、D 群 37.4%(76/203) であり、有意差は認められなかった。初回の胚移植で臨床妊娠に至った症例の割合は G 群 71.4%(55/77)、D 群 71.4%(65/91)、臨床妊娠成立までの平均移植回数は G 群 1.42 ± 0.78 回、D 群 1.44 ± 0.88 回で有意差は認められなかった。

【考察】今回比較した全ての項目で両群間に有意な差が認められず、Eeva™ による胚評価の臨床的有効性は確認できなかった。このため、今のところ胚盤胞の評価は形態学的評価のみで十分であり、分割期胚まで遡って確認する必要性はないと考える。今後は、形態動態学的評価が必要な場面や Eeva™ 以外の指標を検証する予定である。